



〒010-0521 男鹿市船川港  
南平沢字上大畑台 30  
男鹿市立男鹿南中学校  
TEL 0185-23-3241  
FAX 0185-24-4947  
第206号

**生徒たちが笑顔で登校し、ともに学び・高め合う学校を目指します！**

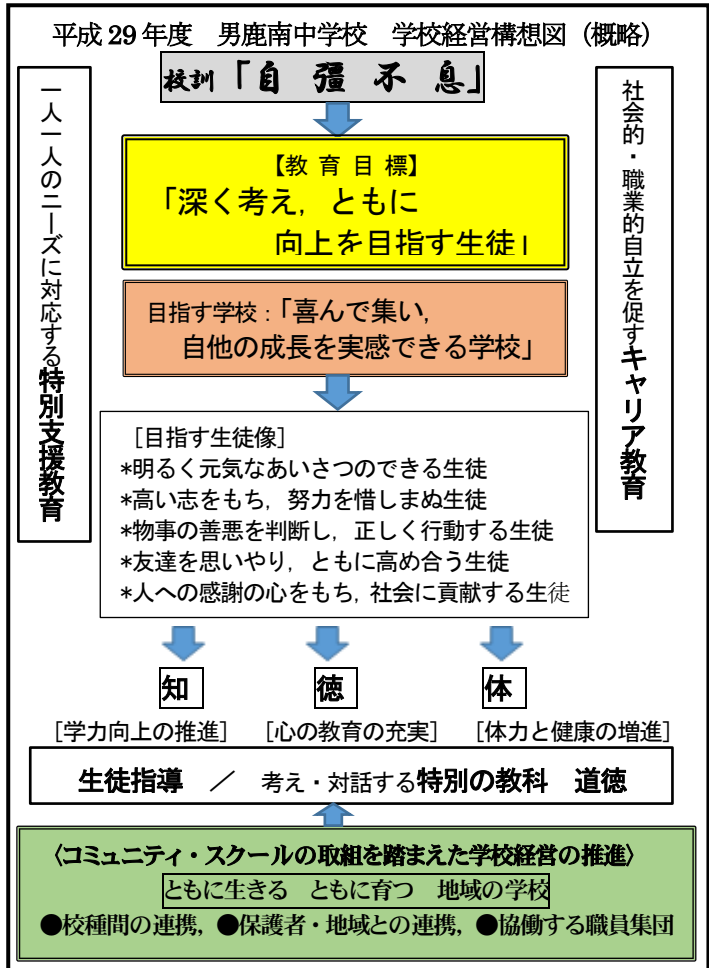
校長 栗 森 貢

4月のスタートから早くも1ヶ月が経とうとしています。入学式や生徒会入会式を終え、部活動に入部して活動を始めた1年生。授業でも聞く態度がとても立派で、やる気と元気にあふれていて今後有望です。2年生も後輩ができ、去年より意欲が表面に出始め、活動的になってきました。3年生は、授業に笑顔と活気があふれ、グループ学習においても対話を重ねて楽しく学ぶ姿がよく見られます。

P T A総会や体育文化後援会の総会も無事終了し、組織体制も決定しました。P T A授業参観の出席者が55名と今までにない参加者数で、今年目標である「参加したくなるP T A授業参観」の最初としては満足いくスタートとなりました。家庭での子どもの姿とは違う場面での子どもの努力している姿を少しでも多く見ていただき、話題として利用して下さい。

さて、今年度の本校の学校経営の構想を右に掲載しました。校訓は普遍的だと思いますので継続していきますが、教育目標はその時代で求められるものや生徒の実態及び目指す生徒像により変わることがあります。昨年度までの「夢の実現に向かい、ねばり強く自らを高めていく生徒の育成」を継続するか考えましたが、2019年度からの「道徳の教科化」や2021年度の「新中学校学習指導要領」で目指す学校教育の在り方を踏まえ、「深く考え、ともに向上を目指す生徒」と改めました。「深く考え」には、新学習指導要領で求められる「主体的、対話的で深い学び」を意識し、「ともに向上を目指す生徒」は、生徒相互はもとより、生徒を伸ばそうとする教師の指導や支援を充実させるとともに、コミュニティ・スクールにより保護者や地域の教育力を最大限に発揮したいという願いも込められています。

コミュニティ・スクールの第1回の学校運営協議会を4月28日(金)に開催し、10名の委員の委嘱を行いました。また、学校経営構想やコミュニティ・スクール運営計画についても熟議しました。



**“唯一生き残ることが出来るのは、変化できる者である”**

これは、4月の校長会で鈴木雅彦教育長さんが話した一節で、チャールズ・ダーウィンの言葉を引用したものです。この文の前には、「最も強い者が生き残るのではなく、最も賢い者が生き延びるのでもない。」という文があります。変化に対する積極的な対応ができるかどうか、「生き残るための力」であるということです。「継続した取組と絶え間ない挑戦が学校の未来を切り拓く」と力説されました。「子供たち一人一人に確実に学力を付け、男鹿に特化したふるさと教育をきめ細かく実践することで、男鹿市の将来は拓ける。」何を、いつまで、どのように変えていくかが求められる。